随筆

KTS駐在記

長　江　達　彦

1．はじめに

2014年７月から2017年１月まで中国上海にあるグループ会社のKYB Trading Shanghai（以下KTS）で海外赴任を経験した．

妻と子供３人帯同での中国生活であったが，つい最近まで一人っ子政策が実施されていた中国では子供が３人いる家庭は皆無に等しく（２人でも珍しい），子供を連れて街を歩くといつも注目の的で良く話し掛けられるという多少面倒ではあるが面白くも楽しい駐在生活の一部を紹介したいと思う．

写真１　自宅からの風景

2．中国生活

上海は日本人駐在員が約６万人，出張者も含めると常時10万人の日本人がいる都市なため，日本人向けの飲食店やデパート，スーパーは多々あり，それぞれのクオリティも高い．また公共交通機関が安くて街中に張り巡っているため移動にも困らず，生活についてはほとんど困ることは無い．ただしバスは運転手の運転がかなり荒いため，酔い易い人や怖がりの人はあまり乗らない方が良い．

空気は日本でも報道されているように非常に汚い．北京や河北省など北の方と比べれば上海は良い方ではあるが，やはり日本の空気とは比べ物にならない．自分も最初は気にかけて外出時にマスクを着用していたが，毎日だと面倒な上にPM2.5を完全に除去できるマスクは高額で見た目もガスマスクのようなデザインでかっこ悪いため，結局ほとんど付けることは無かった．

写真２　PM2.5

住居は家賃が東京並みに高い割には故障が多い，防音性が無い，衛生環境が悪いと散々であった．防音は我家の場合は迷惑を受けるというよりは掛ける方であったが，中国人の多くは子供が好きなので我家に子供が３人いることが分かるとだいたい仕方がないという事で許してくれる．

子供は日本人学校に通わせていたが2,000人以上の児童がいるマンモス校である．尖閣問題が起きる以前はもっと多くて3,000人規模だった．現在は児童数が世界一の日本人学校はバンコクだが，上海は2,000人クラスの学校が２校あるため総児童数ではやはり上海が世界一である．１年生が最もクラスが多く高学年になる程クラスが減っていく．中学受験のために帯同家族のみ帰国する家庭が増えるからだ．教育のレベルは日本から選出された志の高い教職員の方が多く，児童も教育熱心な家庭が多いことから

総じて学習意欲が高いと感じた．ただし日本人学校なので外国語の能力はほとんど伸びない．そのため日本人学校でなくインターナショナル校に通う日本人の子供も一定数在籍している．

グループ会社のKYB Industrial Machinery（Zhenjiang）（以下KIMZ）がある鎮江へは出張で何度も出向いたが，上海と違って日本人が30～40人しかいない都市なので日本語は全く通じない．日本食料理屋は日本食ブームもあり10軒以上はあるが，その多くが「なんちゃって」日本食なので味はダシが入っていなかったり味付けが中華仕様になっていたりと総じて微妙である．また移動はタクシーがメインだったが上海と違ってマナーが悪く，客が乗っているにも関わらず同じ方向の他の客がいればどんどん相乗りさせるため訳が分からない状態になることも間々ある．ただ異国文化を経験するという点は上海よりも鎮江の方が断然優れており，日本語も通じないので中国語のスキルを伸ばしたい，中国をどっぷり感じたいという人には良い場所である．

写真３　日本人学校の運動会

３．中国語

日本人は漢字が理解できるため読解は漢字を見れば予備知識なしでも６～８割は理解できる．

一方で発音は非常に難しく，中国人との会話は慣れるまでにそれなりの苦労を要した．一つの発音，例えば「ま」(発音記号でma)という言葉ひとつ取っても四声と呼ばれるイントネーションが４種類ありそれぞれ意味が全く異なるためにそれが言い分けられないと相手に言いたい事が伝わらないということがよくある．中国人は相手の言っていることがよく分からないと露骨にしかめっ面をする(悪気は無い)ので強いメンタルを持って臨まなければ心が折れてしまうだろう．

４．中国での調達業務

私が所属していたKTSの本業はショックアブソーバの市販だが，グループ会社のKIMZやWuxi KYB Top Absorberが調達する原材料（鋼材・アルミ・作動油）に関わる部分は各メーカや商社が上海に拠点をもっているケースが多く，情報収集の面で利があることから，やはりグループ会社であるKYB（China）Investment（KCI）の資材調達部門の私がKTSに籍をおいて調達活動を行っていた．

私が駐在していた期間は中国の設備投資過剰に起因する生産能力過剰の問題から原材料価格が低下の一途を辿っていた時期であり，各鉄鋼・アルミメーカとも赤字が続き厳しい時期であった．調達である私の立場からすれば各メーカとも喉から手が出るほど（価格を無理してでも）仕事が欲しいという時期であったため，調達としては仕事のやりやすい環境下だったと思う．

中国の鉄鋼メーカと言えば国営企業や半国営企業が大半を占め，コントロールが難しい，どちらが客か分からないといった評判を事前情報でよく聞いていたが，実際には上述のような環境下ということもあり，非常に前向きで協力的だったという印象を持っている．ただ技術力がKYBの要求する品質レベルに追い付いていないため，気持ちはあるが実績が伴ってこない．結果が出せないと評価も悪くなってしまうというジレンマのある状況下にあった．だが，学ぶ姿勢がある企業はいずれ技術力でも日本に追い付いてくると思う．

写真４　出張先で食べた本場の四川料理

５．中国人とのビジネス

日本人と比較してYes・Noをはっきり言うのでその点においては個人的には好感を持っている．ただやれるかどうか分からないこともはっきりYesと

言ってしまう傾向があるため，ビジネスにおいては本当にYesと捉えて良いのかこちらで判断をする必要があると感じた．逆にNoの場合は完全なNoと捉えて良い．

また一度仲良くなるとすごく親切にしてくれる国民性なので，中国でのビジネスを語られる場合によく人と人との繋がりが重要と言われるのはこのことを示していると思われる．ただプライベートであれば仲良くなるに越したことは無いのだが，利害関係にある取引先と仲良くなるというのはリスクや将来的なしがらみを作る可能性も含んでいる為に是非の判断が難しい．中国文化と中国語が完全に理解できて，しがらみを超越した関係が作れたらベストかもしれないが駐在期間でその関係を構築するのは簡単ではないと感じた．

中国人は日本人と比較して交渉事がうまいと感じる．日本人は早々に妥協点を見出そうとする傾向があるが中国人は最後の最後まで主張を曲げない傾向が強い．それでも本当に折れざるを得ない時の妥協策はきちんと準備しているという，あざとさも持っている．

中国人のいい事ばかり書いているようだが，癒着問題や決断が速すぎるゆえの失敗（過剰投資や発注など）など危うい面もある．また基本的に家族や仲の良い相手を除く，他人に対しては冷たい傾向があるので，結果として中国人は不親切だと感じる日本人が多いのはそのためだと思う．

写真５　人で賑わう上海虹橋駅

６．中国国内旅行

日本へ戻ったら中国へ旅行するという機会は余程中国を好きにならない限り無いだろうという発想から，暇を見つけては旅行に行っていた．

チベットやモンゴルなどの奥地やハルピンなどの寒冷地を除いて凡そ日本人が行きそうな観光地は訪れた（万里の長城，九寨溝，桂林，峨眉山，楽山大仏，黄山，張家界，海南島など）．加えて中国語が多少喋れるようになってからは，日本人が観光で行くことはまず無いだろうという所にも家族を連れて行ったりもした（南昌や武漢など）．

最初の頃は日本人向けのツアーで行っていたが，ツアー代が異常に高額な上に自由行動が出来ないことから個人手配で行くことが多かった．

個人旅行をする際に最も困るのは移動手段である．チャータ車を手配すれば楽なのだが安心できる所に依頼すると地方でも１日貸切り３～４万円と高く，且つ日本語も大体通じないため割に合わない．そのため余程辺境の地に行く場合を除いて，駅や空港からタクシーを使って目的地へ行くことが多かった．その場合に困るのは帰りの移動手段である．帰りはタクシーが捕まらないことが多く，公共交通機関も大混雑するため個人タクシーをよく使った．個人タクシーは危ないと思われがちだが有名なタクシー配車アプリを使えば安全かつ比較的リーズナブルに車を手配することが出来る．最初は言葉がうまく通じないため色々と苦労したが慣れてくれば片言の中国語でも何とかなるようになってくる．

このタクシー配車アプリは1,500万人以上の運転手が登録しており，ユーザが３億人以上もいる世界最大の市場である中国でシェアの９割を占めている．地方だとなかなか運転手が捕まらないこともあるが，その場合もチップを上乗せすればそれ程苦も無く手配することが出来る．日本はタクシー業界の抵抗と法的縛りが多いため配車市場はほとんど浸透していないが非常に便利なシステムなので是非浸透して欲しい．

話は旅行の件に戻るが，中国の観光地にはそれぞれ格付けが施されており，☆１～☆５までランクがある．中国というと不潔・不便・不親切・人が多い・

写真６　万里の長城

トイレが無いなど負のイメージが付きまとうが☆5の観光地であれば人が多くてやかましい点を除いて払しょくされており快適に観光することが出来る.

7．中国の方言と食文化

中国には中国人でも把握できていない程の無数の方言と料理がある.

言葉は基本的に北京語（標準語）を使っていれば全国どこでも通じるが，北京語とは別にその地方独自の方言が各所にあり，上海であればそれは上海語ということになる．上海語は上海にいれば頻繁に聞くことが出来るが何を喋っているのかは全く分からない．北京語と上海語とでは単語も発音も異次元レベルに違うためだ．上海には時折，年配の方などで上海語しか理解できない人も一定数おり，そういった方の場合は上海語の分かる上海人しかコミュニケーションが取れないということになる.

こういった方言が中国大陸のあちこちにあり，上海から車でたった１時間ほど移動しただけの無錫市という所にも無錫語があり，上海語同様に無錫人にしか理解できない言語があるという.

料理も方言同様に多種多様な料理があり，出張で色々な地方に出向き色々な料理を食べてきたが，いまだに初めて食べる食材や味付け，料理に出会うことができる.

写真７　中国の国宝であるパンダ（上海動物園）

8．おわりに

KTS，KCI，KIMZで一緒に仕事をしたローカルスタッフや駐在員の皆様，また海外駐在という自分や家族の人生においても貴重な経験を積む機会を与えてくれた会社に紙面を借りてお礼を申し上げたいと思う.

ありがとうございました.

著　者

長江　達彦

2008年入社．調達本部第一調達部部品調達室．同資材調達室，KTS調達部を経て現職.